

第7回市民委員会討議概要 11月29日(日)午後2時～午後5時15分

市役所5階会議室

○出席者

市民委員26名、構想日本スタッフ(伊藤・原田)及びコーディネーター4名  
事務局)総務部長・池本参事(進行)・重城企画課長・企画課企画係職員4名  
及びワーキンググループ職員4名  
担当)11課の課長級職員(代理出席含む)

事)(配布資料確認)

構想)(富津市民委員会報告書(案)についての説明)

(質疑なし)

事)(富津市総合戦略(素案)についての説明)

①重城企画課長から、人口ビジョン及び総合戦略の基本的な考え方の説明

②企画課職員から各基本目標の説明

(第一→國吉「自分のくらす地域を好きになる」)

(第二→中山「くらしやすく、移住しやすい環境づくり」)

(第三→赤井「子どもの笑顔があふれるまちへ」)

(第四→牧野「市の産業・仕事を創る」)

(10分間の休憩)

構想)総合戦略(素案)に対する質疑の進行について説明

→「①人口ビジョン②総合戦略の概要③各基本目標」に分け、午後5時までの予定

(①人口ビジョン)

※前提として、当初の35,000人から34,000人に修正

(出生率目標を2.1→1.83[市民アンケートにおける富津市の希望出生率]とした)

委)未婚率の高さや合計特殊出生率の低さについて、市外に出た人は算出する分母に入らないのではないか。また、他三市や県平均よりも水準が低いのは他に理由があると思う。旧三町ごとにデータを出すなどしてでも、もっと原因を究明してほしい。

事) この水準は南房総市などよりも低く、東京都とほぼ同じ水準である。引き続き原因を探って適切な対策を検討したい。

構想) (コーディネーターの紹介と、コーディネーターも発言すること、質疑応答後でも意見を受け付ける旨を説明)

コ) 第四分科会では、最大の問題である人口ビジョンについて、「その人口となったときのまちのイメージがわからない」「人口の少ない田舎の何が悪いのか」という意見が圧倒的だった。年少人口が云々の前に、こうした意見をぜひ反映していただきたい。

## (②総合戦略の概要)

構想) 11 ページの理念の「シティプロモーション」について、わかりにくい表現がある。富津における「シティプロモーション」はこうだという記述がもつとあっていいと思う。

事) 外に売り出す前に富津の特徴を再確認し、市民の皆さんと成り立ちや特色について共通認識や誇りを持ってもらい、それを外に伝えるという手法を、「シティプロモーション」と呼びたい。

構想) まずは、市民全体で富津市の魅力を再発見することから始まり、その魅力が外につながっていく、そのことを「シティプロモーション」と解釈します。

委) インターネットでは、例えば南房総市や大多喜町では「産業まつり」などについて「何月何日にあります」といった記載があったのに、富津市のホームページでは見かけなかった。イベント広告にしても、シルバーウィークの馬出しまつりだけでなく、その他にも小さいながらもいろんなことをやっていた。そのことも「シティプロモーション」ではないのかと思う。また、情報発信の手法として「2ちゃんねる」のような掲示板もいいと思う。

事) 市役所のホームページが全ての情報源にはならず、市全体で見れば各所でいろんなことをやっても、どうしても市の発信する情報が堅いイメージが多いと思う。役所がつなげ役となり、皆さんに地域で一次的な情報を発信していただくということが本当に中を知ることになり、外につながっていくといういい循環になる。「富津っていいところだね」と外の人から言われることで、また愛着も増すと思うので、市民の皆さんと一緒にやっていきたい。

構想) 情報発信自体はとても重要だが、それだけが「シティプロモーション」ではないと思う。自分を含めた外の間人が評価して、「ああ、そうだったのか」という反応が意外に多かった。中にいる人たちが、外に発信できる魅力ある情報に気づくことが大事だと思う。

コ) 11 ページの「アクセスの良さも魅力です。」の表現について、私のように遠方から高速で来るとその実感はあるが、一方で市内の公共交通への不満の高

さを考えると、違和感があるように思う。

事) 現状の、単線のままかつ本数も半分の JR が不満に挙がっていると思われるが、一方で高速道路の四車線化も始まっている。これについて、より適切な表現があればお願いしたい。車による利便性を念頭に、アクアラインなども記載しているところだ。

委) この記述は「都心へのアクセス」と考えるべきか。アンケートで記入した記憶がある。

事) そのとおりで、都心にするか羽田空港にするかということについて、全国に発するメッセージとして羽田空港とした。

構想) この続きでも述べているので、この記述はここでは必要はないかもしれない。言いたいことは、田舎の風景が羽田空港から 40 分のアクセスのところにあるということだ。

委) プロモーションの記述の中でひらがなを多用している意味は。

事) ひらがなと漢字の使い分けについては迷ったところだが、再検討したいと思う。

構想) このプロモーションのテーマは、これからの 5 年間のキーワードになるので、さらに議論を深めていきたい。

委) 理念の中に、「富津に住んだらこうですよ。」というイメージがあまり具体的に書かれていない。日常生活のことなどは書いてはいけないのか。

事) 自然環境などの主だった魅力を文字化した結果、このような記述となっている。ライフスタイルとしては、目標の一つとして提案している。

委) 12 ページ(2)の「住民参画による進行管理」は、第四分科会の意見を集約した形だと思うが、ここでこれが理念に入った重要性・5 年計画における位置づけを明確にした考えを説明していただきたい。

事) 今も進行している市民委員会について、進行管理は市民委員会も当事者として担っていただくということを明示した。

委) こうした意見を頂けると、市民としても、「またがんばろう」という気持ちになれるのでぜひお願いしたい。

委) 再びアクセスについての話になるが、フェリーは久里浜と金谷の往復のみである。「～の玄関口」という表記は、いろんな地域からの往来を連想させてしまうので、ふさわしくないかもしれない。

事) そうした捉え方もありうるということなので、これも再検討する。

構想) この部分に限らず、「富津」を平仮名・漢字で使い分けている理由は。

事) どちらかといえば、最近「ふつつ」と平仮名で表記している場面が多いが、漢字にした場合の意味を考えると、「富津」という表記を売り出してもいいのではないかと考えている。

- 委) 今の話だが、「富津」の表記に鍵括弧をつけていたり、つけていなかったりする理由は。
- 事) 現在、表記の統一性は詰め切れていないので、調整したい。
- 委) プロモーションテーマについて、「都市」という言葉は、魅力として売り出す自然などとイメージが合わないのではないか。
- 事) 都市というと、都会を連想させるイメージはあるかもしれないが、市内には都市化した部分もあるので、これも検討したい。
- 委) アクセスについては、羽田空港に限る必要はないと思う。みんなが飛行機で来るわけではないので、東京駅を追加してもいいのではないか。
- 事) 現状のアクアラインでは、アピールした時間通りに到着しないケースが増えている。それを踏まえたくて検討したい。
- 構想) 羽田空港という具体的な場所を示すことでイメージしやすくしており、都心にしてしまうと抽象的になるので、一つの例示として羽田空港とした。
- 委) 富津のイメージとして、何よりも財政の建て直しがまず必要だと思う。記載順が優先度に沿っているかはわからないが、それを最初に書くべきではないかと思う。
- 事) 三番目の経営改革の推進については、経営改革会議で提言をいただいております、第四分科会の提言書に今年度の中期収支見込みが入っている。これについては、「このまま対策をしなければ、29億円の赤字であり、財政調整基金も底を尽きかけている」という状況から、黒字転換と財政調整基金の確保という一定の成果があったので、さらに進めていくために三番目に盛り込んだ。
- ただし、財政面が先に来ると、「財源がないから何も検討しない」という考えが先行するので、より優先度が高いものとしてシティプロモーションをきちんとすることで、交流人口が増加し経済が回っていく、という考えからこの記載順とした。
- コ) これまでの第二分科会の流れの中で、市民委員会のあり方・これまでの市役所と市民の関係・特にバスストップなどに多くの時間を割いたが、こうして市民委員会を開き、その意見を取り入れながらこうしてまとめたのは一つの前進だと思う。しかし、この書きぶりだけでは、「今まで通りやります」という感じで、「今までがしっかりしていなかった」というニュアンスがあまりないように思う。報告書(案)1ページの市長あての提言のように、市役所が中心となって物事を決めて進めるのではなく、市役所が市民に情報を出して市民の意見を聞きながら合意形成をして進めていくということを総合戦略に盛り込めないかと思う。また、もっと市職員もがんばってほしいという意見を分科会で挙がっているので、盛り込みにくいとは思いますが、管理職から若い人までみんなアイデアを出しあい、また一市民として地域でできることを行って

いくなど、今までとはシフトを変えていくということを表示した方が、市民と共に総合戦略を作ったという姿勢が出せると思う。

事)「今まで通り」という捉え方になってしまうので、こうしたニュアンスも工夫して明文化できればと思う。

構想)今のことは、報告書の最初と最後に入れてもらえればと思う。なお、プロモーションテーマは年内の最終決定を考えている。

委)海や山があることはすでにみんな知っているのだから、市民に開かれたイメージを持たせるために、今からでも公募はどうか。

構想)今からの公募は難しいと思うが、個々の観光資源ではなく、全体としていいイメージが見えると、本当の富津のよさも出てくるのではないかなと思う。

### (③総合戦略の各基本目標)

委)総合戦略の素案には格好の良いことがずいぶんと書かれていて、経営改革により黒字化するのも結構だが、市にはまず生活道路の維持補修をやってもらいたい。市へ道路補修の申請をしてから3年4年経っているものもあるので整備を進めてほしい。また、総合戦略は国の承認がいるのか。

事)総合戦略は市で決定するもの。これについて国が「良い、悪い」を言う権限は無い。生活道路については地元で不安感を与えている部分はある。

委)区長手当がカットされたことによって区長のやり手がさらになくなった。区長手当をカットしたことについて、説明していただきたい。

総務部長)区長手当を下げさせていたことについて、根拠を持って計算しており、区長さん方への説明、納得の上で減らさせていただいた。色々ご不満な点はあるかと思うが、お願いしたところである。また、区長さんの仕事についても、市でできることはやって、お願いしなくてもいいことがあればそれも検討していくのでご理解していただきたい。

委)空き家について、どういう方向に進んでいるのかお伺いしたい。せめて市の窓口をお聞きしたい。

事)これを進めるには、まず、空き家の所有者からの申し出が必要。所有者、不動産業者、銀行、市の関係者間で色々なケースを想定した実効性のある仕組みを検討していくことが必要だと思う。市の窓口については、危険空き家は建設部、活用空き家は企画課で対応している。

委)ある統計を見たら、富津市の職員の給与は県内51位で、市民一人当たりは34位、市議会議員は19位。市の職員は県内でも低い順位で一生懸命がんばっているのだからほめてあげるべき。

委)29ページの市内事業所従業者数の数字の根拠は。

事)経済センサスという統計調査から引用した数字である。今年度実施している

- 国勢調査の数字は、2年の時間を要するため今回は採用しなかった。
- 委) 5年後に富津市の人口が減っているにも関わらず、従業者数が220人も増える根拠は。
- 事) 企業誘致などの雇用促進をはかり、新規の事業者が増える結果としてこの数字になるだろうという見込みである。
- 構想) 確認だが、この数字は市民の数字なのか、それとも、市外から通勤で来る人も入るのか。
- 事) 市内の事業所で働く人数なので富津市民以外の人数も含む。
- 構想) それならば、富津市の人口は減るが他市からの事業者を呼び込んで220人増加するということを知るように書いたほうがよい。
- 委) まず一つ、アクセスについて、分科会では高速バスストップに時間を割いたが、19ページのKPIについて、この人数を提示してそれが達成されなかった場合、そこにかけたお金はどうなるのか、できなかった場合の責任は問えるのか。逃げ道という言い方は悪いが、場合によってはパーセンテージで示したほうが良いのではないか。個人的には現状のプランのままで平成31年に高速バス利用者70,000人は不可能だと思う。
- もう一つ、富津市における保育所の待機児童ゼロについては、都市部の問題とは性質が違ふ。富津市はニーズが無くて待機児童ゼロ、決して誇れるものではない。「待機児童ゼロ」という表現は外したほうが良い。
- 事) KPIについてはまだ統一の表記になっていない。わかりやすい指標を用いたいと思う。子育て関係についても同様に検討したい。
- 委) 30ページ、ふるさと富津応援寄付は「ふるさと納税」のことだと思うが、5年間で大幅に上がるという強気な目標の根拠は。
- 事) 今年度から返礼品を開始しており、カード納付などできる限りの策を打っている。来年度以降も継続して地元製品のPRを兼ねて売り出していきたい。目標値を1億、3億、5億にするかという議論はあるが、人口減少社会における経済活性化のため、外への売り出しを本格的にやっていく必要があることから高い目標を設定した。
- 委) コストがかかりすぎるうえに、本来の趣旨にそぐわないのではないかという声もある。収入を超えた支出がないようにしていただきたい。
- 委) 図書を介した親子の事業参加人数や、家庭教育学級参加人数の目標が、現状とほぼ差がなく、提示する意味があるのかわからない。
- 事) 人口減少をかんがみながら、この数字を維持したい。KPIについて人数にするかパーセンテージにするかは検討したい。
- 委) 市役所の広場などを使って子育てのための場所を作りたいという話が第3分科会の中心的な議題だったはずなのに、それについて具体的な施策の記載

がない。

事) 今回はこういった形で示しているが、参加型の公園作りのワークショップ事業を実施したうえで、それについて効果があれば今後は他のことも導入していきたい。

委) 分科会での議論の流れと今回の記載事項がかけ離れているので不満が残る。

事) 記載の方法について、意見が漏れているように見えるかもしれないが、決して分科会で出た議論を消しているわけではない。記載の方法は検討する。

構想) 先ほどの施策を行った結果として市内事業所の事業者数が増えるという話と、今の、現状の子育て事業に参加する人数を維持していくこととは、別物の人口増加策として考えていただきたい。

委) 30 ページの海苔の共同施設の設置件数とはどういうことか。

担当) 海苔の共同施設については、これから設置していきたいと考えている。現在計画中で進行中である。現在はその施設がないので、平成 31 年度に 2 棟設置を目標とした。

委) 19 ページのバスターミナルについて、市民委員会では何もこの話は出ていない。バスストップとバスターミナルを両方整備する必要はないと思う。

担当) バスストップ及びバスターミナルについて、バスターミナルは検討中で、現在バスストップのみ工事施工中である。

委) 木更津や君津のバスターミナルに既に人が流れている状況で、バスターミナルを作る必要があるのか。

担当) 地元からのバスターミナルの建設要望に基づいて検討している。

委) それについて市民に説明する必要はないのか疑問である。

事) 補足として、高速バスストップについては浅間山、バスターミナルは市北部で検討している。国道 16 号と 127 号沿線のそれぞれの交通アクセスを向上させようとするもので、地域がまったく違うということをご理解いただきたい。

委) 市北部に駐車場付きのバスターミナルがあるなら、浅間山のバスストップはいらないのではないのか。市内に 2 つも同じような施設はいらないのではないのか。

事) 当然のことながら費用対効果を検討するのが施策を進める前提となっている。

委) 今の意見についてもう少し詳しく聞きたい。現状はどうなっているのか確認したい。

担当) バスストップ事業は、現在、ネクスコ東日本に委託している事業で、高速道路の 4 車線化と並行して高速道路上に停留所を設置するもので、バスストップそのものは未着手。

委) 食品添加物を公表してほしいという要望に関して、食材に係る市民ボランテ

- アイデアとの連携をもって進めるという認識でいいか。
- 担当) おっしゃるとおりである。
- コ) 今の議論で一番市民が気にしているのは KPI だと思う。この KPI については市民委員会ではほとんど議論されなかった。例えば、先ほどのノリ共同利用施設を 2 棟にするなどは聞いていない。具体案やコストパフォーマンスの説明がなく、唐突に 2 棟と出て来てもこれが良いか悪いかが判断できない。スケジュールの問題もあると思うが、いずれその議論をして市民の皆さんに承認してもらう手続きが当然必要だと思う。ノリ共同利用施設について、誰が、どこに、いつまでに作り、どれほどの効果があるのか、ということの説明する機会とその是非を問う機会がないと、この総合戦略が良いか悪いかがわからない。
- 事) ただいまの意見について、検討したい。
- コ) 検討の結果を返してくれることを約束してほしい。
- 事) 承知した。
- 委) 第三分科会のもうひとつの問題について、子育てに関する一元的な窓口がないかという議論が多かった。これについても具体的な施策に入っていない。これはどうなったのか。
- 担当) ワンストップ窓口について、26 ページに課題として明記している。様々な相談について、子育て支援課の窓口と個別の事業で対応していきたいと考えている。
- 委) 多岐に分かれていると、たらいまわしの原因になるので、統括的にコーディネートする場所または人をお願いしたい。
- 担当) 子育て支援に関する事業については、すべて子育て支援課で対応したい。
- 委) それならば KPI に示してほしい。
- 事) 承知した。
- 委) この素案は富津市創生会議と合同で行うのか。われわれ企業の計画の立て方では、数値目標の設定が必ず必要だが、市民委員会では数値目標について論議していない。創生会議で数字を出すのか、市民委員会で数字を検討するのかお聞きしたい。
- 事) 市民委員会報告書には KPI は入っていないので、この報告書を受けて事務局側で KPI を入れている。最終的には市が作成するもので、この場でご意見をいただいて、次回の創生会議にかける。市民委員の皆さんに責任を持って下さいというものではないことをご了解いただきたい。
- 委) それならば報告書を先に議論したほうがよかったのではないかと思う。
- コ) 今の話に関連して、戦略の素案で挙げた事業も事務局の判断だと思われる。この市民委員会の成果として、市民委員会からいただいたアイデアをもって



実施したということを示さないと、うやむやなまま終わってしまう。既存のものと、市民委員会から挙げたものは分けた方が良い。また、課題がまだ整理されておらず、以前から市で検討していたバスストップ及びバスターミナルのようなものについては、本当にここに載せるべきものなのか疑問である。市民委員会は課題の整理だけして、施策事業はもともと市にあった事業を実施するだけだと、市民委員会の意義が無くなる。そのあたりの事業の掲載について再度整理する必要がある。

コ) 公表の際には総合戦略と市民委員会報告書を併せて公表してほしい。市民委員会でこの報告書ができて、これを基に創生会議を経て総合戦略ができました、という形で公表することをお願いしたい。

構想) 本来この市民報告書を先に議論すべきだが、今回、この素案を示さないとスケジュール的に間に合わないので、報告書から素案へ反映させる作業は事務局で行った経緯がある。KPIについては、これまでの議論を踏まえて事務局で設定している。この総合戦略は、当然行政が行う戦略である。市民委員会、創生会議、他の団体の議論も踏まえたうえでの行政の戦略になるので、先ほどのバスターミナルがここに唐突に載っていることは、進め方として間違ったものではない。また、判断材料として、第四分科会の提言書なども入れている。

なお、12 ページにある「住民参画による進行管理」の中には、弾力的に運用とあるので、少なくとも今後見直すことができる余地はある。

また、15 ページの課題については、自治会活動が希薄というより、富津市は全国的にみても自治会活動がかなり進んでいて、強みでもあると思う。この表現は修正したほうが良い。また、「ライト会員制度」という、本来の自治会活動より緩やかな仕組みがあって良いのではないかと思う。

事) 12月11日の富津市創生会議で修正を盛り込み、年内に案とすること、次回の市民委員会は来年2月上旬に実施することを説明、創生会議に向けた修正案は、2日前までであれば修正を受け付ける。日程については、可能な限り早く決定したい。

(質疑終了)

事) (事業仕分け結果の対応方針について説明)

(質疑なし)

事) 補足として、報告書への名簿記載について、照会文書を送付しますので、ご協力をお願いします。

(以上、閉会)

## 第7回市民委員会 第4分科会 討議概要

平成27年11月29日 午後5時15分～午後6時30分 場所：入札室

出席委員：10人（全20人）

コーディネーター：石渡秀朗

事務局：企画課 牧野、高橋  
農林水産課 茂木

【テーマ】 産業・雇用 ～市の産業・仕事を創る～

コ) 本日は、前回お示しした第4分科会の意見をまとめた提言書（素案）について、加筆した内容の確認をしたい。また、前回質問事項について、事務局から回答いただきたい。

### 前回質問事項について

◎大貫中学校区の転出者が天羽中学校区に比べ多い理由

市) 調査期間が4月から8月までの集計分に、10月末分までを追加集計した。

転出総数834人（366世帯）のうち、アンケート回答数が282件あり、そのうち大貫中学校区が49件、天羽中学校区が17件であった。追加集計をしたが、住んでいて満足・不満だった点や転出理由について、前回報告した内容から進展した情報は特になかった。今後は、別の効果的な分析方法を考えたいと思う。

コ) 別の方法で分析して、結果がわかった場合、委員の皆さんにお知らせしていただきたい。具体的な期日や方法は事務局に一任する。

◎空き家情報の把握に関する警察との連携の可能性

市) 他市でも警察と空き家情報を共有している例もあり、こういった情報を共有するかは今後の調整になるが、警察をはじめ、関係する機関と連携がとれるような体制をつくることから始めていきたいと思う。

コ) 空き家関連の担当窓口を設けることについて、スケジュールは決まっているのか。

市) 今年度中に来年度からの担当窓口を決定して、どこ（空き家関係者）と協議するのかを詰めていきたいと思う。

コ) 行政の担当部署が決まった際は、今回ここで議論した内容についても検討いただき、委員の皆さんがわかるような情報提供をしていただきたい。

◎民泊、農家民宿、観光入込客数について

市) 民泊については、産業の国際競争力の強化や国際的な経済活動の形成を促進する観点から、国が定めた「国家戦略特区」に認定されたうえで、民泊に関

する条例を制定することで可能となる。民泊を認める旅館業法の特例は、1週間から10日間程滞在する外国人向けであり、大阪府で条例が制定されており、東京都大田区でも条例制定を進めている。また、千葉市も国家戦略特区へ提案中である。

農家民宿については、農林漁業者が経営し、宿泊客に農林漁業体験を提供する宿泊施設であり、平成17年に規制緩和されたことで可能となった。主な規制緩和の内容は、旅館業法として本来は33㎡(20畳)以上の客室延床面積が必要なところ、認定を受ければ1部屋からでも宿泊営業できることなどがある。対象資格として、農林漁業者とその親族となっており、市街化区域内は対象外地域となる。県内の農家民宿数は、2010年の農林業センサスにおいて、24経営体で、南房総地域が多い傾向となっている。

観光入込客数について、潮干狩り、工農場見学を目的とする観光客が多いことが資料からわかる。宿泊施設はホテル、旅館、キャンプを含んだ数となっている。

委) 農家民宿について、農林漁業者以外の方が宿泊所を開設することはできないのか。

コ) 民泊・農家民宿についての議論は、空き家対策の話からはじまっており、空き家対策として活用できるかどうかも含め、一次産業従事者以外の一般の方が民泊・農家民宿を行うことが可能か調べていただきたい。分科会として集まる機会があまりないので、資料を委員の皆さんに通知する方法でお願いしたい。

民泊・農家民宿については提言書には具体的に記載していない。そこで「可能性として検討する」といった内容で提言書に追加したほうがよいという意見があれば記載する。(委員から提言書に追加する意見あり)

## 提言書について

コ) 前回の議論や、事前に委員の皆さんから頂戴した記載内容についてのご意見を踏まえ、提言書を加筆したので、それらを中心に再度確認していきたいと思う。

### 【加筆箇所】

- ・ P 4 第4分科会開催経過について、11/8分を追加した。本日はこの後追加記載する。内容については私に一任させていただきたい。(委員の承諾あり)
- ・ P 5 前は委員名簿となっていたが、名前の掲載について委員全員の承諾を得られなかったため、年齢、男女別の委員構成とした。座長とナビゲーターには名前を掲載することの承諾を得ており、その他構成員として私を含め3人の名前は掲載した。
- ・ P 12、13 人口ビジョンの項目で、「二地域居住型ライフスタイル」、「富

津版C C R C構想」について、分科会で議論してきたので提言を追加した。(提言6、7)

- ・ P20 計画の進行管理における市民委員会の役割の項目で、事業仕分けの意義について分科会でもご指摘を受けていることから、進行管理にその手法を取り入れたらどうかという提案を追加した。

- ・ P21 編集後記で座長とナビゲーターのコメントを掲載した。

コ) 以上が提言書の加筆部分である。ご指摘をいただいた、文字の大きさや罫線、スペースの問題など、まだ修正していない部分もあり、不完全ではあるがこういう形で議論するのは本日が最後なので、この後の中身の修正は私に一任していただき、本日11月29日付けにて、ひとまずこの内容で提出することについてご承諾をいただきたい。(委員の承諾あり)

出来上がった提言書は、後日委員の皆さんにはお配りする。

### 今後の予定について

コ) 提言書は、12月11日開催の創生会議までに提出し、総合戦略素案の議論に付け加えていただく予定である。

創生会議後については、12月中旬に市議会に説明した後、12月末までに総合戦略(案)を作成し、1月にパブリックコメントを行うことになっている。通常パブリックコメントは1か月位の期間を設けるが、これまで市民委員からご意見をいただいていることから少し短めに設定すると聞いている。具体的な予定は決定しているのか。

市) まだ決定はしていないが、10日から2週間程度の期間と考えている。

コ) 市民委員会の委員はこのパブリックコメントに参加することに問題はないか。

市) 問題ない。

コ) 市民委員会は討議することを目的としているが、私はこの委員会で討議した結果を何かに反映させる。つまり、アウトプットを第4分科会を出してそれが政策に反映され、その後どう行われたかを検証していくことも市民の役割だと思っている。そういった問題意識を持ったうえでこの提言書をまとめたので、委員の皆さんには今回のパブリックコメントに参加していただきたい。

パブリックコメント後、2月上旬に最後の創生会議・市民会議が開催され、その後に市議会へ総合戦略(案)を説明する予定である。市議会へは全員協議会の場で説明すると聞いたが、1日だけでいいのかという意見もあり、必要であれば十分な議論を市議会にさせていただくことを望んでいる。

総合戦略において、基本目標を立てたものが施策となり、それを現実にするために事業がある。事業にはスケジュールがあり、予算もある。つまり、総合戦略とは別の計画が本来あるべきであり、事業に関する計画がどのように

行政から出されるか委員の皆さんも注目しておいていただきたい。

## その他

委) 事業の予算化はいつするのか。

市) 総合戦略の事業については、誰がいつどのようにやるかはまだ決まっていない状態で、予算化をする前にまずは事業化を図らなければいけない。事業化に向け、金額を先に考えるのではなく、効果的なやり方を検討したうえで予算を計上しなければいけない。新しい項目をはじめ、すべての項目でそれがまだ決まっていないため、それらを練っていったうえで効果的な予算付けをしたいと考えている。

委) 総合戦略関連の予算は一般予算と同じ取扱いか。

市) 同じ取扱いで、毎年2月に議会に提案する。総合戦略に掲載される事業は、進行管理をしたうえで、継続事業についてはそのまま予算計上するが、新規事業については担い手が決まっていないものもあり、それらについては補正予算も視野に入れた適切な時期に予算計上をする。

コ) 予算は単年度であるのに対し、総合戦略は5年計画であり、立案した施策が5年間にどういう予算配分されるか、別の事業計画(実施計画)が必要であるとする。複数年にわたる事業計画を作っていないと総合戦略の具現化には結びつかないと思う。

市) 単年度で財源の制限があるなかで、年度別に事業をどのように実施するかを定めた実行計画のようなものは施策を具体化するためには必要であると考ええる。

コ) 複数年にわたる事業計画をこれから立案される。その具体的なスケジュールなどはまだ決まっていないということだが、実現する必要があると思うので委員の皆さんも注目しておいていただきたい。

総合戦略の政策が事業計画でどう具現化していくのか、その進行管理に市民が参画していく。その手法として事業仕分けがあっているのではというご提案をいただいたわけで、そのような関係性をご理解いただきたい。

委) 事業を落とし込んでいく過程で市民をどう巻き込むかの検討をするということか。

市) 行政ですべてのことはできない時代であり、どのような形で市民の皆さんと一緒にやっていくかは今からの検討課題だと思っている。

コ) せっかく総合戦略を策定したのに、それを具体化する計画がないというのは、市民の方にとって進行管理をどうやっていいかも、そのために必要な予算がいくらかもわからない。そのため、是非必要な事業計画を作ることをお願いし、なおかつ市民の方にはそれを見ていただき、あるいは計画策定の際に参画をしたいというご意思もあることから、そういった取り組みをしていただきたいと思う。